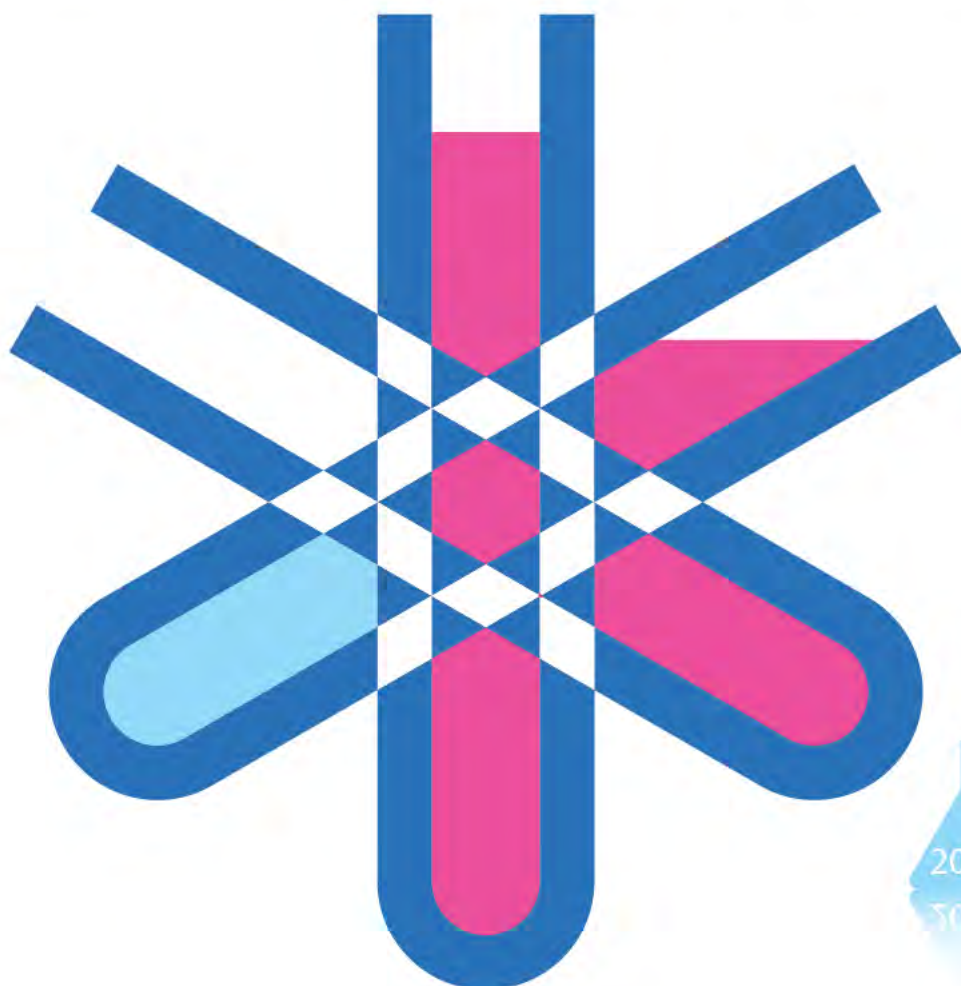


検査情報月報



横浜市衛生研究所

平成24年9月号 目次

【トピックス】

夏期食品収去検査	1
----------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成24年8月	4
------------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(平成24年8月分)	9
-------------------------------	---

夏期食品収去検査

夏期食品等一斉点検は厚生労働省医薬食品局食品安全部長から出された「平成24年度食品、添加物等の夏期一斉取締りの実施について」の通知に基づき、夏期に多発する食中毒等食品による事故防止と食品衛生の確保を目的に全国一斉に実施されました。

本市においては平成24年6月1日から8月31日まで夏期取締り期間と定め、一斉点検を行いました。そのうち、食品専門監視班と福祉保健センターによる収去が平成24年6月4日から7月24日まで実施され、当所が行った細菌検査と理化学検査の結果について報告します。

1 細菌検査

細菌検査の内訳は、乳等に関しては乳製品・アイスクリーム類など31検体52項目(表1)、乳等を除く他の食品に関しては魚肉ねり製品・食肉製品・そうざいなど121検体422項目(表2)でした。

検査項目は、主に各品目の規格基準^{※1}や衛生規範^{※2}について行いました。また、非加熱食肉製品(生ハム)についてはリステリア・モノサイトゲネスの検査を加えて行いました。

検査の結果、加熱処理のそうざい2検体(2項目)が、衛生規範不適となりました。内訳は生菌数超過(32万/g;基準は10万/g以下)、大腸菌陽性(基準は陰性)でした。また、これら不適となった食品は市内製造品であったことから管轄する福祉保健センター等に連絡しました。

※1 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたもののことです。

※2 衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類についての衛生的な取り扱い等を示した指針のことです。

【 検査研究課 細菌担当 】

2 理化学検査

搬入された220検体(輸入品113検体、国産品107検体)の食品について食品添加物等の検査を行いました。今回は野菜類・果物加工品、肉卵類加工品、菓子類、かん詰・びん詰食品、清涼飲料水などを重点に、保存料、着色料、甘味料など3,013項目の検査を行いました(表3)。

その結果、表示にない漂白剤を検出した乾燥果実1検体が違反となり、食品衛生課から輸入者を所管する自治体に通報しました。その他の検体はいずれも食品衛生法に適合していました。

【 検査研究課 食品添加物担当 】

表1 細菌検査結果（乳等の収去検査）

平成24年6～7月

食品区分	検査検体数	検査項目数	不適検体数	不適理由
乳製品				
ナチュラルチーズ	10	10	0	
アイスクリーム類・氷菓				
アイスクリーム	3	6	0	
アイスマルク	6	12	0	
ラクトアイス	2	4	0	
氷菓	10	20	0	
合 計	31	52	0	

表2 細菌検査結果（乳等を除く）

平成24年6～7月

食品区分	検査検体数	検査項目数	不適検体数	不適理由
魚介類加工品				
魚肉ねり製品	11	17	0	
肉・卵類及びその加工品				
非加熱食肉製品	5	20	0	
加熱食肉製品(加熱後包装)	16	52	0	
牛肉	17	102	0	
鶏肉	24	72	0	
その他陸棲哺乳類の肉(挽肉等)	9	51	0	
穀類及びその加工品				
生めん	1	3	0	
餃子・ワンタンの皮	1	3	0	
清涼飲料水				
果汁入り飲料	2	2	0	
清涼飲料水(その他)	4	4	0	
野菜類				
すいか	4	12	0	
その他の食品				
弁当類(加熱処理品)	4	12	0	
そうざい類(加熱処理品)	22	69	2	生菌数超過、
そうざい類(未加熱処理品)	1	3	0	大腸菌陽性
合 計	121	422	2	

【 検査研究課 細菌担当 】

表3 理化学検査結果

平成24年6～7月

大分類	検体数	違反検体数	項目数	検査項目						
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤	発色剤	水分活性
魚介類	2		2					2		
凍結直前未加熱の加熱後 摂取冷凍食品	1		4	3				1		
魚介類加工品	17		203	51	140	8		2	2	
肉卵類及びその加工品	34		430	102	293				34	1
乳製品	1		16	3	13					
アイスクリーム類・氷菓	19		196	12	146	38				
穀類及びその加工品	2		22	6	12		3	1		
野菜類・果実及びその加工 品	43	1	698	120	487	78	5	8		
菓子類	32		381	24	274	33	48	2		
清涼飲料水	22		466	195	230	40		1		
酒精飲料	8		61	24	24	6	7			
かん詰・びん詰食品	28		357	69	222	25	29	11	1	
その他の食品	11		177	48	112	13	3	1		
合 計	220	1	3013	657	1953	241	95	29	37	1

【 検査研究課 食品添加物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 8月

《今月のトピックス》

- 成人男性を中心に風しんが流行しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握疾患

<腸管出血性大腸菌感染症>

7件(O157 VT1VT2 4件、O157 VT2 1件、O157 H7 VT2 1件、O103 VT1 1件)の報告がありました。これらの事例の感染経路、感染原因は現在調査中です。本疾患は例年夏季に感染者数が多く、引き続き注意が必要です。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

<デング熱>

3件の報告がありました。すべて渡航先(フィリピン、インド、タイ)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。

<レジオネラ症>

肺炎型2件の報告があり、どちらも尿中抗原陽性のため診断されましたが、感染の原因は現在調査中です。

<レプトスピラ症>

1件の報告がありました。観光旅行先(ラオス)での川下りによる水系感染が推定されています。レプトスピラ症は、病原性レプトスピラの感染によって発症する急性熱性疾患です。病原性レプトスピラの保菌動物の尿で汚染された環境での労働やレジャーの他、保菌動物の尿や血液に直接接触する可能性のある労働などでの感染が報告されています。感冒様症状のみで軽快する軽症型から、黄疸、出血、腎障害を伴う重症型(ワイル病)まで多彩な症状を示します。国内でもカヤックインストラクターなど、河川でのレジャー産業に従事する人達や、ネズミなどへ接触した人で散発事例がみられています。一方、国外ではブラジルなどの中南米、タイなどの東南アジアなど、熱帯、亜熱帯の国々で流行しています。詳しくは下記ホームページをご参照ください。

◆レプトスピラ症について(国立感染症研究所)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ra/leptospirosis/392-encyclopedia/531-leptospirosis.html>

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/335/tpc335-j.html>

<急性脳炎>

2件(どちらも幼児)の報告がありました。病原体は現在調査中です。

<梅毒>

3件の報告がありました。2件は早期顕症梅毒Ⅱ期で、国内での異性間性的接触および同性間性的接

触での感染が推定されています。もう1件は早期顕症梅毒I期で、国内での性的接触が推定されています。

<風しん>

18件の報告がありました。6月下旬以降、市内の届出が急増しており、既に昨年1年間の約4倍(56件)となっています。流行の中心は予防接種歴の無い、あるいは不明の20～40歳代の男性ですが、10歳代以下でも報告されています。風しんの免疫を持たない女性が妊娠中(特に妊娠初期)に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。流行を抑えるためには、女性だけでなく、男性の予防接種も重要です。

市内風しん届出数(2012.8.27現在)



◆横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

定点把握疾患

平成24年7月23日から平成24年8月26日まで(平成24年第30週から平成24年第34週まで。ただし、性感染症については平成24年7月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成24年 週一月日対照表

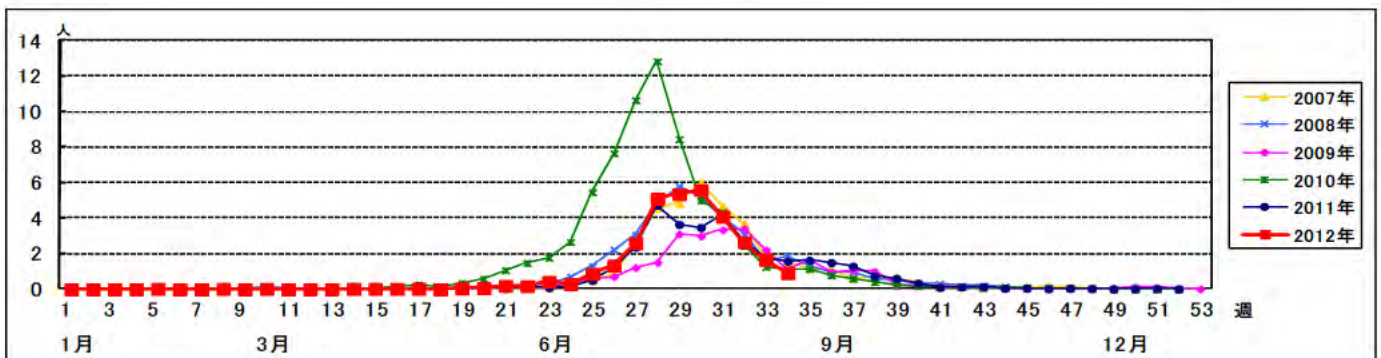
第30週	7月23日～29日
第31週	7月30日～8月5日
第32週	8月6日～12日
第33週	8月13日～19日
第34週	8月20日～26日

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

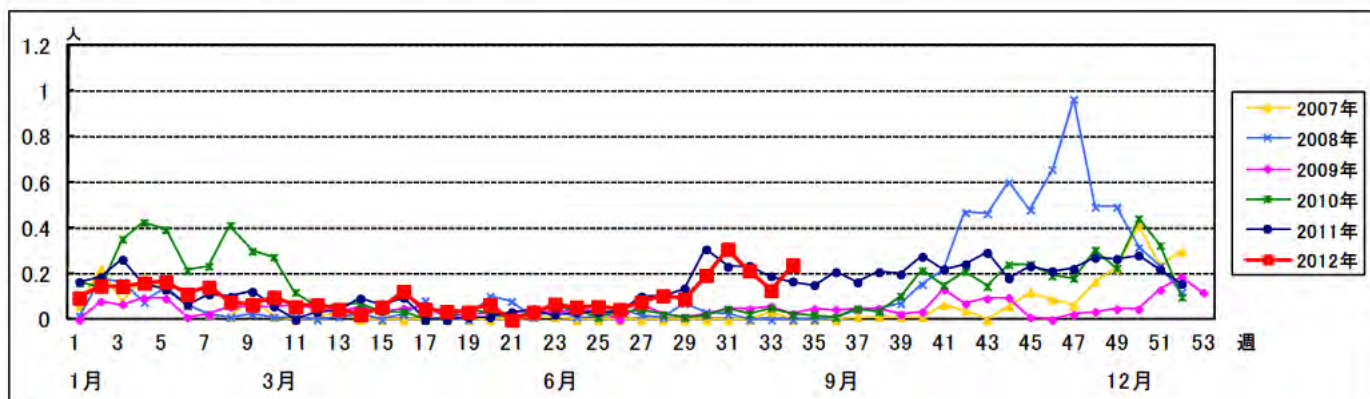
<ヘルパンギーナ>

今季の流行は市全体で第30週に定点あたり5.59とピークとなった以降は減少傾向が続き、第34週は0.91と落ち着き、今季の流行は終息したものと思われます。区別でも、警報レベルの流行は見られません。



<RSウイルス感染症>

第34週は市全体で定点あたり0.24と、大きな流行は見られませんが、最近5年間の中では比較的報告が多い状況です。



<性感染症>

7月は、性器クラミジア感染症は男性が21件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が10件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が16件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>

マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60～1.40(例年定点あたり0.2～0.6程度で推移)と増加しました。最近では少し落ち着いてきたものの、第30週0.98、31週0.94、32週0.98、33週1.14、34週0.98と、0.80～1.00程度の報告が多い状態が持続しています。横浜市でも第30週2.33、31週0.00、32週1.50、33週1.00、34週0.00と、やや報告が多い状態が継続しています。第30週に無菌性髄膜炎2件(どちらも30代女性、病原体は未検出)、第34週に2件(どちらも幼児、病原体は未検出)報告されました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>

7月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症8件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点39件(鼻咽頭ぬぐい液38件、ふん便1件)、基幹定点12件(鼻咽頭ぬぐい液5件、ふん便4件、髄液3件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎29人、ヘルパンギーナ3人、手足口病3人、胃腸炎2人、発疹症1人、咽頭結膜熱1人、基幹定点は無菌性髄膜炎3人、白血球減少症2人、発疹症2人、急性腭炎1人、胃腸炎1人でした。

9月10日現在、小児科定点の手足口病患者1人からエンテロウイルス71型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の気道炎患者1人からアデノウイルス1型、1人からコクサッキーウイルス(以下CA)2型、1人からCA4型、2人からCA5型、2人からエコーウイルス6型、1人からエコーウイルス7型、2人からパラインフルエンザウイルス1型、1人からパラインフルエンザウイルス2型、4人からパラインフルエンザウイルス3型、1人からアデノウイルス(型未同定)およびパラインフルエンザウイルス1型と4型、1人からパラインフルエンザウイルス1型と4型、1人からRSウイルスとCA5型、ヘルパンギーナ患者1人からCA4型、咽頭結膜熱患者1人からアデノウイルス3型が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

8月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から菌株受付が6件、定点以外の医療機関等からは12件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2、O157:H7,VT1&2、O26:H+,VT1、O103:H2,VT1)、カンピロバクター、NAGビブリオが検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から5件で、A群溶血性レンサ球菌、肺炎球菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(8月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	8月			2012年1月～8月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	6	12	0	122	60
菌種名						
赤痢菌						2
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌		1	6		3	27
腸管毒素原性大腸菌					2	
チフス菌					1	
パラチフスA菌					2	
サルモネラ					20	3
カンピロバクター			3			10
コレラ菌						2
NAGビブリオ			1			1
不検出	0	5	2	0	92	15

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	8月			2012年1月～8月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	5	0	29	67	14	85
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1			9		
	T2	2		2		
	T6			9		
	T4			2		
	T12			10		
	T25			1		
	T28			3		
	T B3264	1			4	
B群溶血性レンサ球菌			3			17
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			26		4	26
バンコマイシン耐性腸球菌					1	3
<i>Legionella pneumophila</i>						1
インフルエンザ菌				6		2
肺炎球菌	1			3		
黄色ブドウ球菌				1		
破傷風菌					1	
結核菌						3
<i>Mycobacterium avium</i>						1
不検出	1	0	0	17	8	32

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成24年7月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成24年8月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成24年7月のアクセス件数、アクセス順位及び平成24年8月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成24年7月)

平成24年7月の総アクセス数は、156,111件でした。主な内訳は、感染症64.0%、食品衛生12.0%、保健情報8.2%、検査情報月報5.4%、生活環境衛生2.5%、薬事0.9%でした。

(2) アクセス順位 (平成24年7月)

表1 平成24年7月 アクセス順位

7月のアクセス順位(表1)は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、第2位が「トキソプラズマ感染症について」、第3位が「クロストリジウム-デフィシル感染症について」でした。

7月の総アクセス数は、前月比で約4%の減少となっています。今月は暑さが強まってきており、「熱中症(熱射病、日射病)を予防しましょう」へのアクセスが増えて、8位に入っています。また、増加傾向にあるヘルパンギーナや夏季に流行する手足口病のそれぞれの原因である、

エンテロウイルス属に関するアクセス件数が増加しました。マイコプラズマ肺炎は、年間を通じてアクセス件数が多くなっています。国立感染症情報センターの報告によると、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、平成24年第27週(7月2日～8日)で0.95、第28週(7月9日～15日)で0.91、第29週(7月16日～22日)で0.84とやや減少傾向にありましたが、第30週(7月23日～7月29日)で再び0.98と高い水準となっています。

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	9,594
2	トキソプラズマ感染症について	7,922
3	クロストリジウム-デフィシル感染症について	3,784
4	衛生研究所トップページ	3,763
5	サイトメガロウイルス感染症について	2,835
6	エンテロウイルスについて	2,139
7	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,131
8	熱中症(熱射病、日射病)を予防しましょう	2,095
9	風しんについて	2,060
10	サルモネラ感染症(食中毒)について	2,007

データ提供:総務局IT活用推進課

厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ&A(一般の人向け) 平成23年12月

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou30/index.html>

「風しん」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/rubella1.html>

「サイトメガロウイルス感染症」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/cytomegalol1.html>

「エンテロウイルス」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/entero1.html>

「熱中症(熱射病、日射病)を予防しましょう」に関する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/heatkinkyu/heatstroke.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成24年8月）

平成24年8月の問い合わせは、4件でした(表2)。

表2 平成24年8月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
チクングニア熱について	1	感染症・疫学情報課
過去の横浜市の結核発生状況について	1	感染症・疫学情報課
LC/MS及びLC/MS/MSについて	1	検査研究課食品添加物担当
苦情事例写真の使用について	1	検査研究課食品添加物担当

2 追加・更新記事（平成24年8月）

平成24年8月に追加・更新した主な記事は、13件でした(表3)。

表3 平成24年8月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
8月 1日	風しんの発生状況	追加
8月 2日	病原体定点からのウイルス検出状況	追加
8月 6日	熱中症情報について	追加
8月13日	災害応急用井戸について	更新
8月14日	保健統計データ集について	更新
8月14日	第19回衛生研究所展(衛生研究所施設公開)の開催風景について	掲載
8月14日	熱中症情報について	追加
8月15日	風しんの発生状況	追加
8月16日	腸チフス・パラチフスについて	更新
8月20日	熱中症情報について	追加
8月27日	熱中症情報について	追加
8月30日	ウェルシュ菌による食中毒について	更新
8月30日	風しんの発生状況	追加

【 感染症・疫学情報課 】